

# WEEKLY NEWS 2016 週報 通算 2190回 《3回》

第2640地区

## 和歌山東南 ロータリークラブ

<http://www3.cypress.ne.jp/tonan-rotary.html>



人類に  
奉仕する  
ロータリー

会長 土屋一博 幹事 中曾真二郎  
会報委員長 山本真司

例会日：水曜日 例会場：Mメール華月殿  
第1・第2:18:30～(夜)  
第3・第4・第5:12:30～(昼)  
事務局 E-Mail  
a-rotary@coral.cypress.ne.jp

本日の例会  
7月27日(水)  
12:30～華月殿

- ・開会点鐘 土屋会長
- ・ローターソング 奉仕の理想
- ・出席報告(例会委員会)
- ・ニコニコ箱(寄付金)報告
- ・会長挨拶
- ・幹事報告
- ・委員会報告
- ・行事「会員卓話」赤在会員・竹中会員
- ・閉会点鐘 土屋会長

先週例会報告 会場監督 山田さち子

ゲスト・ビジターはございません。

### 会長挨拶

土屋一博 会長

皆様こんにちは、7月18日の海の日に近畿地方は梅雨明けとなり、毎日暑い日が続きますが熱中症などご無理なされない様よろしくお祈りいたします。  
本日の会長報告はありません。



### 幹事報告

中曾真二郎 幹事

- ① ロータリーリーダー7月号がR Iより届いております。各テーブルに一部置いてあります。お目通しいただき、御入用の方はお持ち帰りください。
- ② 和歌山南 RC 北畑博史会員ご尊父がご逝去されました。クラブより弔電をお送りしています。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
- ③ 公式訪問の事前アンケートが地区から届いております。その中でガバナーへの意見の項目があり、ガバナーへの御意見がある方は来週水曜日までに事務局へファックスかメールをしてください



### ニコニコ箱

谷口 拓 会計

- 土屋君・先日、長男が教育隊を卒業。串本分屯基地に入隊しました。
- 中曾君・先日はありがとうございました。
- 稲葉君・土屋会長 役員の皆様、一年間よろしく。
- 谷口君・坂口さん、中曾さん、先日はありがとうございました。
- 皆出席表彰・市川君、太田君、神谷君、籠田君、楠見君、郷間君、坂口君、平君、辻本君、土屋君、中曾君、松浦君、溝落君、南君、保田君、山口君、吉田君。



Rotary  和歌山東南ロータリークラブ

	ニコニコ	米山記念奨学会	ロータリー財団	東南育英会
累計	495,776	108,000	113,000	0

出席報告			出席者	出席率
会員総数	44名	7/20	32名	76.19%
出席免除会員	3名	7/6	39名	90.70%

**2015-16 度皆出席会員表彰 22 名 (皆出席会員発表をし、記念品を授与しました)**  
**内ホームクラブ 100%出席会員 郷間会員 2 年・平会員 1 年**

3 8 年 釜中甫千会員  
 1 7 年 神谷尚孝会員  
 1 6 年 保田 博会員  
 1 3 年 市川正夫会員、土屋一博会員  
 1 0 年 郷間博敏会員、中岡隆文会員  
 8 年 竹中昭美会員、南美和子会員  
 7 年 辻本圭三会員  
 6 年 赤在依美会員、溝落和作会員  
 5 年 楠見珠緒会員、山口幸也会員  
 吉田 遼会員  
 3 年 太田豊隆会員、坂口和男会員  
 1 年 籠田 弘会員、島本昌幸会員  
 平 平治会員、中曾真二郎会員  
 松浦 薫会員



**「皆出席会員からひとこと」**

**郷間博敏会員**



スケジュールに例会日記載し、出来るだけ仕事等の段取り時スケジュールを入れない様にしています。

又、例会場に参加させて頂き皆様の元気な顔を拝見し、エネルギーを頂いております。これが今や日常の習慣となっております。

何年前かに会長をやらせて頂き、プログラム・親睦・SAA各委員長及び委員会の皆様のご苦勞を感じ、また会長・幹事の報告を聞かせて頂くのを楽しみに出席させていただいております。

**平 平治会員**



昨年度は皆様のご協力を得まして無事終えることができました。ありがとうございました。皆出席の心構えというふうですが、私は途切れてしまっただけで現在1年目ということですが、昨年は会長をやらせてもらった為、皆出席しかも自クラブという結果になりました。敢えて秘訣といえば会長職をやらせていただいた事でしょうかね。スケジュールを最大限の努力をして、例会の日時に合わせたということでしょうね。私の場合、仕事上時間の制限をうけやすいので、自クラブの出席が中心でメイクアップは難しいです。

**神谷尚孝会員**



ロータリーの義務を果たすと言うより、ロータリーを楽しみ奉仕活動に参加したいと思っています。毎年11月頃より記入する年間スケジュール手帳に、最初に記入するのは例会日です。それを極力避けて他の予定を入れて行きます。万一キーキャップしなければならない時は、サインだけの出席ではなく他クラブの例会を楽しみたいと思って居ます。

## 保田 博会員



私が幹事をさせていただいた時に必要にかられてその年皆出席をしたのだと思っております。その後、3年続けてみようと思って頑張りました。

メーキャップも何度もしましたが、一度全ての和歌山市内のクラブへサインではなく訪問してどの様な例会をしているのか興味もあり行かせてもらいました。色々勉強になりました。その後、会長をさせていただく機会に今一度皆出席を続けてみようと思って頑張った結果が今日に至っています。

皆様も何かの機会を見つけて、少し頑張ったり少し自分の仕事の予定を変えると案外出来るものです。年間には何度か出席できない用事が有るのが当然です。その時の為にサイン、メーキャップが有ります。少し面倒ですがサイン等々にこまめに出向いて行動すればなんとなく出来ていくものです。全ては自分との戦いだと思います。口はばったく申し上げましたがお許し下さい。私の今日までの皆出席の思いです・・・

以上

## 市川正夫会員



ロータリークラブに入会させていただいて22年になります。

入会当初は、諸先輩方々からロータリアンの義務として会費を納入すること、「ロータリーの友誌」を読むこと、そして例会に出席すること、の三つがあると教わりました。入会当初は、ソングを歌うなど非日常の世界を感じ、少し違和感を覚えたこともあります。ロータリー活動に参加する中で、新しい発見があり、関心が湧き、その魅力というものが徐々に感じるようになっていきました。

仕事から、例会日を自分のスケジュールとして空けることも儘ならないこともありました。今は、メイクアップの期間が例会日の前後2週間に延長され、他クラブを訪問できる日時と機会が増えておりますので出席補てんが容易になっています。

例会出席を休まず続けることで会員相互の親睦も図れますし、卓話を拝聴することで新たな情報や知識が得られ、見識を広げられることも魅力です。

皆出席を重ねていくうちに、生活のリズムに組み込まれ、又、せっかくここまで続けてきたものが、ここで途切れるのは勿体ないと意識せずとも感じて続けているようにも思います。

入会后、8年続いた皆出席がある事情で1日休むことになり、途絶えました。その後13年皆出席を継続しています。その1日がなければ入会以来22年の皆出席となります。今思えば、大変勿体ない1日ではありますが、それが皆出席を続ける原点でもあります。

これからもロータリー活動には、積極的に参加し、楽しませて頂きたいと思っております。

## 土屋 一博会員



私が、皆出席を始めたのは、2003年～2004年の稲葉会長年度でした。その時は、出席委員長を拝命しており会員数は43名と現在と似ていますが、免除会員6名と名誉会員1名で普通会員は36名で出席率として一人当たりの負担が大変多く、出席率向上には困難を極めておりました。

そこで、自分にも会員の皆様にも奮起して頂きたく、出席率80%以下の時は頭を丸めると宣言致しました。結果、髪は残りましたが、1年間大変だったことを感じ、次の出席委員長には、迷惑を掛けたくない一心で気づいたら13年経っていました。

各委員長など役職は大変ですがロータリー活動を理解するだけでなく、親睦にも通じ経験や熱意が廻りに伝染するというのが良いと思います。

出席率向上には出席委員長の経験がおすすめです。



## 小中学校に 記念誌配布へ

和歌山市遺族連合会

子供たちに戦争の歴史知ってほしい

太平洋戦争中の和歌山大空襲から9日で71年の節目を迎えるのを前に、家族を失うなどした和歌山市遺族連合会の会員らが、記念誌「あゝ大東亜戦争 遺児たちの歩んだ道」を和歌山市教委に寄贈した。小中学校に配布される予定。

記念誌は昨年戦後70年の節目を機に、県遺族連合会に所属する38人の手記を集めて出版。戦時中を生き延びた遺族らのその後の生活などを記し、これまでに県内外から100冊以上の注文があったという。

今回は、和歌山大空襲のあった7月9日を前に「子供たちに戦争の恐ろしさを知ってほしい」と市遺族連合会が寄贈を決めた。計77冊を寄贈し、今月中には市



感謝状を受け取った太田豊隆会長(左)と和歌山市

内の18中学校、53小学校に配られる予定。

同連合会の太田豊隆会長(77)ら5人が市役所を訪ね、寄贈。太田会長は「今の子供たちは飛行機が撃ちに来るとは思っていないだろうが、あの頃は空襲警報で授業も始まりなかった」

などと述べ、副会長の服部恵伊子さん(71)も「戦後の苦労はなかなか手記がない。書けない人もおり、これ(記念誌)はほんの一部」と話した。

原一起教育長は感謝状を贈呈し、「図書館に置くなどして、子供たちが戦争で

生活がどう変わるかを学ぶための良い教材になる。豊かな時代だからこそ必要だと実感した」と教育現場で役立てる方針を述べた。

産経新聞 和歌山版 7月6日(水)、ニュース和歌山 7月9日(土)  
7月4日(月)和歌山市へ市遺族連合会 会長太田豊隆会長が寄贈(記念誌)されました  
記事が掲載されました。  
和歌山市遺族連合会発行の記念誌「あゝ大東亜戦争 遺児たちの歩んだ道」を和歌山市内の小中学校(七一校)に寄贈。

## 産経新聞

平成28年(2016年)7月6日 水曜日

(和歌山) 22

## ニュース和歌山

2016年(平成28年)7月9日 土曜日

### 和歌山市遺族会 小中71校へ記念誌

和歌山市遺族連合会は、県遺族連合会発行の記念誌「あゝ大東亜戦争 遺児たちの歩んだ道」を4日、同市の小・中71校へ寄贈した。市遺族連合会の太田豊隆会長は



目録を渡す太田会長(左)

「戦争を知らない子どもにこそ読んでほしい、平和をつなげていきたい」と力を込める。

記念誌は戦後70年を迎えた昨年8月、県遺族連合会が作成した。戦争で家族を失った子ども38人が戦中と戦後の困窮した暮らしの記憶を記している。市遺族連合会の服部恵伊子副会長は「戦争が起ると、家族や家、食べ物、着る物も全てを失う。戦時中だけでなく、戦後の生活も辛く悲しいものだ」と分かってもらえれば」と語る。

記念誌は各学校の図書室に置かれる。原一起教育長は「体験談の一言で言い表せない当時の悲惨さを伝える内容。豊かな時代の今だからこそ、子どもが戦争の問題と向き合う教材として活用します」と感謝していた。